

アメリカン・グラフィティ (American Graffiti)

観賞日 2026年1月26日 上映時間 110分

【概要】

制作 1973年 アメリカ

監督 ジョージ・ルーカス

脚本 ジョージ・ルーカス、グロリア・カット

　　ウィラード・ハイク

撮影 ハクセル・ウェクスラー他

出演 リチャード・ドレイファス (カート・ヘンダーソン)

ロン・ハワード (スティーヴ・ボランダー)、ポール・ル・マット (ジョン・ミルナー)

チャールズ・マーティン・スミス (テリー・フィールズ)



【あらすじ】

1962年夏、カリフォルニア州の田舎町。高校を卒えた18歳の仲良し4人組の男子。カートとスティーヴは東部の大学に進学、テリーとジョンは地元に残ることに。道はそれぞれ違うが4人は夏休み最後の夜を過ごしていた。カートはこの期に及んでまだ大学に行くべきか決断できずに悩んでいた。車で偶然見かけた金髪美人を探すうちに、ゴロツキ仲間のファラオ団に捕まり彼らのお先棒を担がされることに。生徒会長だったスティーヴはカートの妹のローリーと付き合っていたが仲違いしてしまう。しかし、最後はローリーに負けて夢をあきらめ、地元に残ることに。テリーは拾った娘デビーとドライブ。車を盗まれたり飲めない酒を飲んで大変なことに。ジョンは13歳のおませな娘キャロルの面倒をみる羽目になるが、最後はライバルのボブとのカーレースに勝利する。

全編を通じて流れるオールディーズのメロディに乗せて突っ走る4人のワンナイト。

ジョージ・ルーカスが描く自伝的青春群像劇。いざ出発の刻。

【解説】

■ポイント

●1962年のアメリカ

- 1950年代：第2次世界大戦で唯一の戦勝国といわれたアメリカは1950年代に絶頂期を迎える、平和と繁栄の黄金時代を謳歌した。
- 1960年代：ベトナム戦争への参戦（61年）と深入り、ケネディ暗殺（63年）、ベトナム反戦運動と公民権運動の盛り上がりによりアメリカ社会は分裂、カウンターカルチャーが流行した。
- 1962年はその狭間に当たる年でアメリカが最後の輝きを放ったころ

●監督ジョージ・ルーカス（1944年、カリフォルニア州生まれ）

- 本作はルーカスの自伝的作品であり出世作となったもの
- 「スター・ウォーズ」シリーズ、「インディ・ジョーンズ」シリーズの製作
- S・スピルバーグ、F・F・コッポラと親しく、黒澤明をリスペクト

本作：監督 ルーカス、製作 コッポラ

インディ・ジョーンズ：監督 スピルバーグ、製作： ルーカス

■見どころ

- 日本の若者が憧れた元気だった時代のアメリカ
- 当時を彷彿させる、懐かしいオールディーズの名曲
- ハリソン・フォードが敵役で出演